

＼ 皆さんの声に少しでも応えたい! /

RENEWAL
リニューアルしました!

ちばし

SHAKYO

<http://www.chiba-shakyo.jp/>



社協

だより

DAYORI



Vol.

120

2023.3

千葉市社会福祉協議会(略:社協)は、社会福祉法に基づき、お互いに支え合いながら誰もが住みやすい地域の実現を目指します。
社協は、住民による住民のための地域づくりのお手伝いをするための民間福祉団体です。

Shakyo Person



The 社協パーソン 魅力ある社協の「し・ご・と」 ~採用〇年目 職員のホンネ~

職員のホンネは6ページで紹介!!!

社協活動レポート

P.2

新型コロナウイルス特例貸付の状況と今後の取組み

頼られる社協をめざして

contents

- P.3 グリーンスローモビリティ実証調査 CSW体験記
- P.4 花見川いきいきプラザ地域多世代交流
美浜区地区部会 従事者研修会
- P.5 令和4年度「赤い羽根共同募金運動」
- P.6 社協のしごと

- P.7 情報ぷらっとほーむ
賛助会員・寄附者の紹介
- P.8 求人インフォメーション
自宅で簡単!運動不足を解消!

新型コロナウイルス特例貸付の 状況と今後の取組み

「頼られる社協をめざして」



新型コロナウイルスの流行により、多くの住民の生活を一変させ、私たちの社会生活は大きな影響を受け、現在も収束の見通しは立っていない状況です。

新型コロナウイルス特例貸付(以下、「特例貸付」)は、新型コロナウイルスの影響により生活が困窮した世帯への貸付制度として、2020年3月25日から受付を開始し、当初は同年7月末日までの予定でしたが、影響の広範囲化、長期化等により2022年9月末日まで計10回延長されました。

当初、各区事務所において対面で相談・申請を受け付けていましたが、感染症の拡大を受けて電話による相談・郵便による申請受付も実施しました。

申請に訪れたのは、アルバイトの勤務日数が減ってしまった留学生、営業自粛や時短営業の対象となった業種にお勤めの方、保育所の休所に伴い仕事を休まざるを得なくなった方など減収・失業の理由は様々です。

また、相談者の中にはコロナ禍以前から生活が困窮していた世帯や、外国人世帯、これまで福祉制度や社協とは無縁だった世帯も見受けられました。今回の特例貸付の相談では、

“初めて社協を知った”方々も多くご利用いただきました。相談者の状況に応じて、特例貸付の貸付期間が終了してもなお収入減少が続いていた場合には、自立支援金や住居確保給付金などの他制度を紹介したり、フードバンクちばが行う食料支援や家計改善支援事業につなげたケースもありました。

また、やむを得ず、お子さんの進学費用として貯めていた預金を、生活費に回してしまったとのご相談には、生活福祉資金「教育支援資金」の利用を促しました。

特例貸付は、突然の減収や失業等により生活に困窮した方々に、少しでも早く生活資金を届けることにより生活を支えるという大きな役割を果たしたものと認識していますが、本来の生活福祉資金制度のように十分な面談や相談を実施することができませんでした。

今後の償還事務を含めた相談者との関わりの中で、相談者が抱える地域生活課題の把握に努めながら、相談支援体制の強化、他の専門機関・相談機関等との連携強化により、適切な支援につなげられるよう取組みを進めます。

数字でみる千葉市の特例貸付



貸付総額

75億660万円

件数は19,886件、貸付総額は7,506,609,900円(2022年9月末日)でした。



相談件数

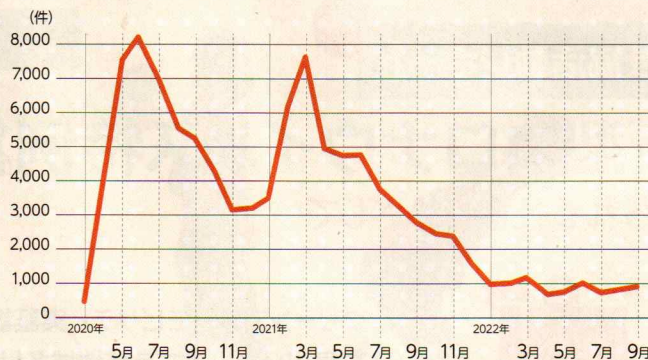
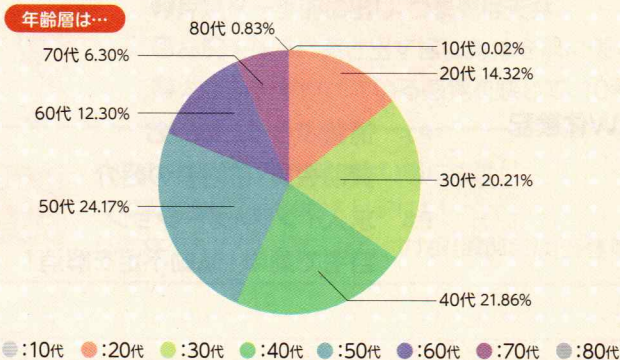
106,350件

通常の年度に比べ、約17倍の相談が寄せられました。

相談年齢層

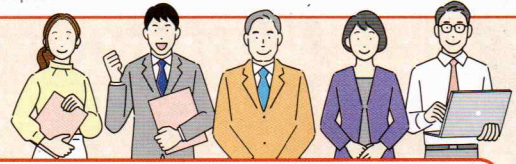
66.2%

30代、40代、50代の相談者が全体の66.2%を占めました。



緊急事態宣言(千葉市)

- 2020/4/7~5/25
- 2021/1/8~3/21
- 2021/8/2~9/30



貸付事務に関わった社協職員の声



事務センター担当職員

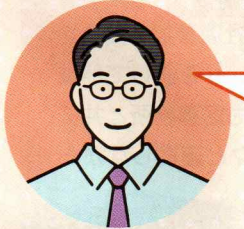
日々、模索しながらの対応でした。感染拡大防止のため、完全郵送対応となり最後まで相談者と顔を合わせないことへの葛藤や難しさはありましたが、これまで社協とつながることのなかった住民の方と繋がることができ、今まで以上に千葉市社協を知っていただく大きなきっかけになったと思います。

※感染症拡大防止の観点から、電話相談・郵送による受付に特化した生活福祉資金貸付事務センターを設置しました。(2020.5~2021.11)

今までにない相談者の多さに、コロナがいかに市民の皆様の生活に影響を与えたのかを実感する日々でした。相談者の不安や憤りを受け止めつつ、お話を伺いながら今後の支援のために必要な情報を聞き取れるよう心がけていました。



区事務所担当職員



区事務所担当職員

「〇〇に就職できた」というご連絡や、「貸付ではないんだけど、相談しやすかったのでもた相談に行きたい」というお声をいただき、微力ながら社協として相談者の生活の一助を担えたと実感することができました。

昨年10月~11月にこてはし台・横戸台、都賀の台、幕張ベータタウン・ベイパークの3地区で、地元企業等の協力のもと各地区2~3週間運行されました。



無事に運行が開始され、グリスロに試乗された住民からは「安全で静かで快適」「ゆっくり走るところが良い」「車中での会話が楽しい」などの声を聞くことができました。

グリスロはまだ一部地域での実証調査の段階ですが、千葉市の新たな支え合い交通の1つとして今後多くの地域で運行されることを期待します。

新たな支え合い交通

グリーンスローモビリティ実証調査 CSW体験記

高齢化の急速な進展によって、私たちの地域においては通院や買い物等、外出が困難な状況が深刻化しています。社協美浜区事務所のCSW*(コミュニティソーシャルワーカー)が、このような地域課題の解決に向けた取り組みとして千葉市がグリーンスローモビリティ(略称:グリスロ)の実証実験を住民主体で行うという情報をキャッチし、運営スタッフの一人として企画段階から活動に参加させていただきました。

グリスロは時速20km未満で公道を走ることが可能な4人乗り以上の電動車両で、外出困難な方への手助けとなる移動手段です。(地域の皆さんは)自分達の街に住む様々な方の生活や街並みを思い浮かべながら、安全面を考慮した運行ルートを選定や広報活動などについて、運行開始までの間、毎週のようにミーティングが行われていました。



CSWの 気づき

- ・乗り合わせた人同士の距離が近い!
- ・開放的な車両なので自然と会話が生まれやすい!
- ・まるで移動型サロン!
- ・新たなコミュニケーションを生む乗り物!
- ・世代を超えた繋がりが生まれた!

Green Slow
Mobility!

*CSWとは…関係専門機関や地域に住む方々と連携して、地域の困りごとの解決を支援する相談員です。千葉市社協の各区事務所に在籍しています。

クリスマス in Hanamigawa

花見川いきいきプラザ地域多世代交流

12/17、花見川いきいきプラザで児童から高齢者まで様々な世代が交流することを目的に、千葉北高校吹奏楽部によるコンサートやポッチャ、モルック、寄せ植え、お茶会、認知症声掛け訓練等を実施しました。今回大活躍だったのが生きがい活動支援通所事業の利用者さん。イベントの準備から当日の物販、ポッチャやゲームの進行等、職員と同じくスタッフとして参加し、このイベントと一緒に盛り上げてくれました。当日は多数のご来場者が



あり、大盛況のうちに終えることができました。このようなイベントをきっかけに地域の方々にいきいきプラザを知っていただくと共に、今後も高齢者の社会参加の機会を提供していきます。また、今回のイベントを通じて地域との連携の大切さも実感しました。今後も区事務所と共にあんしんケアセンター、地域住民の方々と連携しながら事業を進めていきます。

地区部会活動再開に向けて「Let's support!」

美浜区地区部会 従事者研修会

12/9 地区部会の活動再開に向けた支援の一つとして、美浜区事務所と共に各地区部会の従事者を対象とした従事者研修会を開催、美浜いきいきプラザ職員が研修会の講師を担当しました。

美 浜いきいきプラザで支援可能なイベント例として、研修会場に各測定機器を持ち込み、「血管年齢測定+血管の老化予防と若返り講話」、「脳年齢測定+コグニサイズ（頭と体の体操講座）」を上演。地区部会の主体的な活動支援のため、各測定は参加された地区部会従事者の皆様に測定する側とされる側を体験していただきました。

参 加された従事者の皆様は、所属する地区部会での開催を念頭に意欲的に参加して下さい、真剣でありながらも楽しい雰囲気での研修となりました。その結果、年度内に新たな支援要請がありました。



脳年齢測定



コグニサイズ



血管年齢測定



血管若返り講話